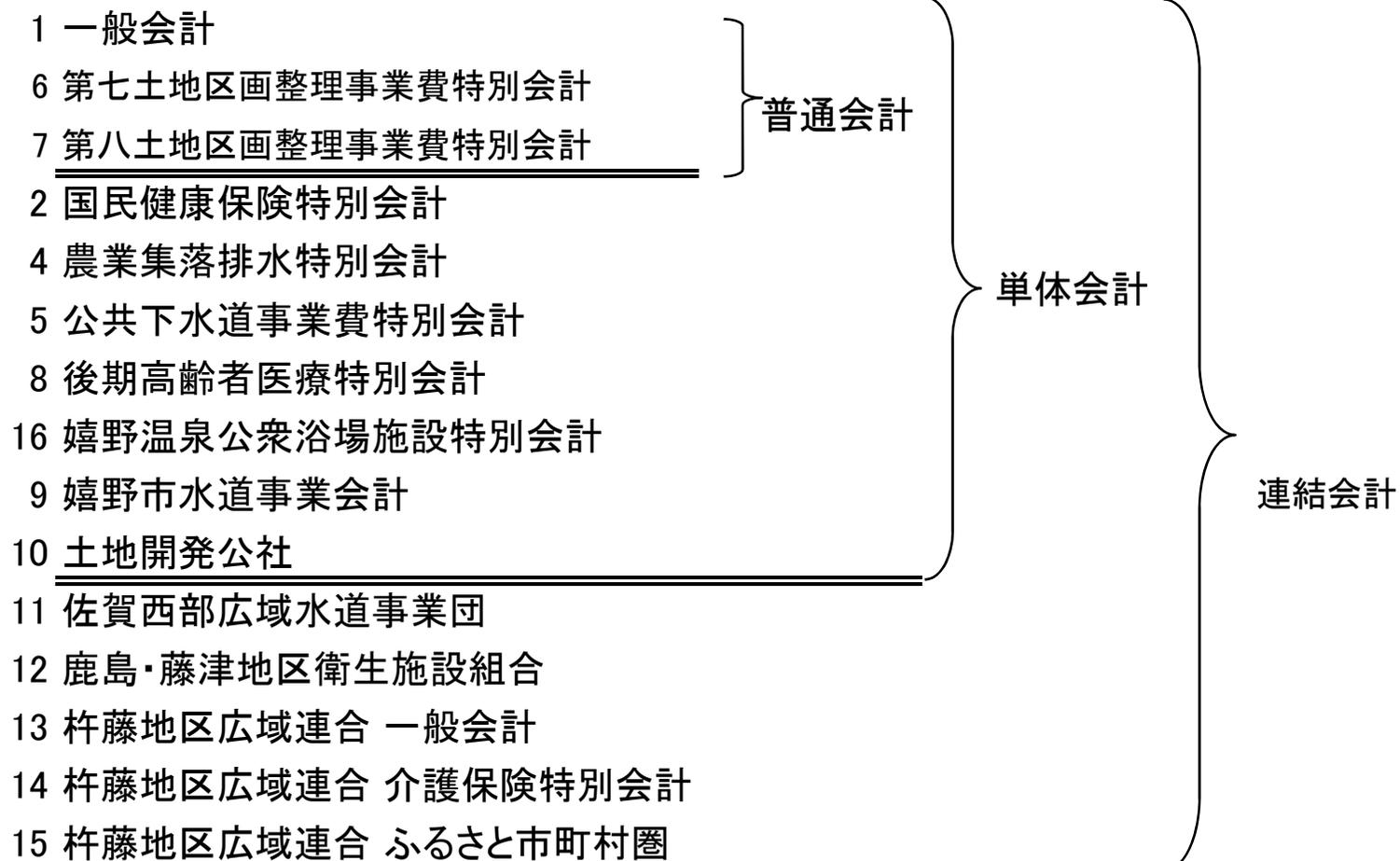


# 平成24年度 嬉野市財務諸表

総務省基準モデルによる作成

# 会計区分



# 新公会計財務諸表のご説明

普通会計 平成24年度

単位(千円)

貸借対照表		金額	負債の部		金額
資産の部			負債の部		
1.金融資産	19.7%	9,158,204	1.流動負債	2.8%	1,312,567
(1)資金		699,798	(1)地方債(短期)		1,155,372
(2)未収金		607,484	(2)賞与引当金		81,003
(3)貸付金		111,636	(3)その他		76,192
(4)その他債権		0	2.非流動負債	28.6%	13,276,923
(5)貸倒引当金		-62,703	(1)地方債		10,572,828
(6)有価証券		196	(2)退職給付引当金		2,704,095
(7)出資金		1,741,144	(3)その他		0
(8)基金・積立金		6,060,650	負債合計	31.4%	14,589,490
(9)その他の投資		0	純資産の部		
2.非金融資産	80.3%	37,277,982	純資産合計	68.6%	31,846,696
(1)事業用資産		17,620,926			
(2)インフラ資産		19,657,056			
(3)繰延資産		0			
資産合計	100.0%	46,436,186	負債及び純資産合計	100.0%	46,436,186

純資産変動計算書		金額
期首純資産残高		29,587,237
純経常行政費用		-9,921,415
直接資本減耗(インフラ資産)		-326,092
財源調達	10,727,396	
税金	2,914,719	
社会保険料	0	
移転収入(他会計移転収入)	7,940	
移転収入(補助金等)	7,798,555	
移転収入(その他移転収入)	6,182	
その他変動	1,779,570	
期末純資産残高	31,846,696	2,259,459

行政コスト計算書		金額
経常費用	100.0%	10,792,703
1.人にかかるコスト	19.4%	2,097,715
(1)議員歳費・職員給料		1,301,751
(2)その他		795,964
2.物件費・経費	28.6%	3,082,986
(1)消耗品費		132,681
(2)減価償却費(事業用資産)		563,067
(3)維持補修費		206,115
(4)その他物件費		126,144
(5)委託費		1,812,289
(6)その他経費		242,691
3.業務関連費用	2.2%	242,536
(1)公債費(利払分)		167,699
(2)その他の業務関連費用等		74,837
4.移転支出	49.8%	5,369,466
(1)他会計への移転支出		792,475
(2)補助金等移転支出		2,401,679
(3)社会保障関連費等移転支出		2,094,465
(4)その他の移転支出		80,848
経常収益		871,288
1.業務収益		526,536
2.業務関連収益		344,752
純経常行政コスト		
(経常費用 - 経常収益)		9,921,415

(1)赤線  
純資産の増減を表します。  
・緑線は減った純資産  
・財源調達は入った純資産  
・その他は資産の目減り分

(2)青線  
資金の増減を表します。  
(現在の決算書と同じ)

赤青が集まって  
貸借対照表を作ります。

資金収支計算書		金額
1.経常的収支	1,610,369	
経常的支出	9,915,905	
経常的収入	11,526,274	
2.資本的収支	-2,266,420	
資本的支出	2,795,576	
資本的収入	529,157	
3.財務的収支	708,726	
財務的支出	1,318,426	
財務的収入	2,027,152	
当期収支	52,675	
期首資金残高	647,123	
期末資金残高	699,798	

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

## 貸借対照表

◆ 貸借対照表、市の財政状況を一目でわかるようにしたものです。

◆ 左側は、市の持つ資産で全体で 464 億円余り(住民1人当たり約 164 万円)  
右側はそれがどうしてできたのかを表しています。  
464億円のうち、約 318 億円は明治時代以来、住民が営々とつくりあげてきた  
ものであり、残りの約 146 億円は地方債やその他の資金でできています。  
純資産比率(純資産/総資産)は、68.6% で全国水準(70%)を下回っています。

◆ その資産の中身を見ると、資産のうちインフラ資産は、道路など、経済的取引には  
馴染まない資産なので、財政上の判断をするときは、無価値として考えるべき  
かもしれません。仮に無価値と考えると実質純資産比率を計算すると 45.5% と  
なります。

◆ 公債については 117.3 億円、住民一人当たり約 414 千円の借金を持っている  
ことになります。

貸借対照表					
資産の部		金額(千円)	負債の部		金額(千円)
1.金融資産	19.7%	9,158,204	1.流動負債	2.8%	1,312,567
(1) 資金		699,798	(1) 地方債(短期)		1,155,372
(2) 未収金		607,484	(2) 賞与引当金		81,003
(3) 貸付金		111,636	(3) その他		76,192
(4) その他債権		0			
(5) 貸倒引当金		-62,703	2.非流動負債	28.6%	13,276,923
(6) 有価証券		196	(1) 地方債		10,572,828
(7) 出資金		1,741,144	(2) 退職給付引当金		2,704,095
(8) 基金・積立金		6,060,650	(3) その他		0
(9) その他の投資		0			
			負債合計	31.4%	14,589,490
2.非金融資産	80.3%	37,277,982	純資産の部		
(1) 事業用資産		17,620,926			
(2) インフラ資産		19,657,056	純資産合計	68.6%	31,846,696
資産合計	100.0%	46,436,186	負債及び純資産合計	100.0%	46,436,186

庁舎、学校、会館など

道路、漁港など売却不能の資産

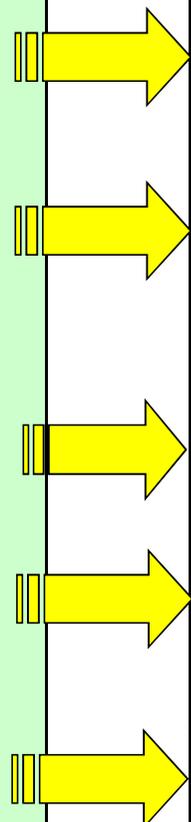
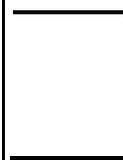
68.6%は正味資産

## 行政コスト計算書

- ◆ 行政コスト計算書は、企業の損益計算書にあたるもので、貸借対照表はストックの財政状態を表すものとすれば、これからの3つの財務諸表はフローの財政状態を表しています。
- ◆ 人にかかるコストのうち、人件費は 市 の職員給与、議員報酬、福利厚生などの他、臨時職員の給料や種々の講習会の講師謝礼も含んでいます。退職給与引当金繰入等は、退職金の支払が永年の通常の勤務に対する代価ですから、通常勤務のコストと考えて、毎年必要な額(発生した費用という)を引き当てます(蓄えておくと考えてください)。他方、実際の退職金の支払は、この引当金から支払われたと考えて、新しい費用は発生させません。今回の場合、この人件費の負担は住民1人当たり約 7.4 万円になります。
- ◆ 物にかかるコストのうち、物件費・経費は、人件費以外すべての業務費用です。「(2)減価償却費」と「(3)維持補修費」は、設備に関する費用です。減価償却費は設備が劣化してそのうち使えなくなるので、その時の更新費用を予め引き当てておこうということですが、簡単にいえば、設備の使用料と考えてください。事業用資産に関する減価償却費のみをここで計上し、インフラ資産のものは次の純資産変動計算書で直接資本減耗費用その他の減少として計上されます。「(3)維持補修費」は、設備が目的とした機能を果たしていけるように行った修繕の費用です。
- ◆ 公債費は、地方債の利子です。これは支出全体の 1.6% ですから、無視できるものではありません。今の金利の状態でもこれですから、経済状況が変われば大変なことになります。
- ◆ 移転支的コストとは、それで直接サービスを行う費用でなく市 を通じていろいろなところへ移転した金額です。また、(1)は単体会計内で相殺処理しております。(2)の補助金等は住民の皆様のさまざまな仕事への補助となるものです。(3)の社会保障給付は、非常に大きな負担となっております。
- ◆ すべての行政コストから、直接の受益者が負担する額、使用料、手数料等を引いたものが、純粋の行政コストです。このコストは当然税金などでカバーさせねばなりません。これが次の純資産変動計算書で表されます。

行政コスト計算書		金額(千円)
経常費用	100.0%	10,792,703
1.人にかかるコスト	19.4%	2,097,715
(1)議員歳費・職員給与		1,301,751
(2)その他		795,964
2.物件費・経費	28.6%	3,082,986
(1)消耗品費		132,681
(2)減価償却費(事業用資産)		563,067
(3)維持補修費		206,115
(4)その他物件費		126,144
(5)委託費		1,812,289
(6)その他経費		242,691
3.業務関連費用	2.2%	242,536
(1)公債費(利払分)		167,699
(2)その他の業務関連費用等		74,837
4.移転支出	49.8%	5,369,466
(1)他会計への移転支出		792,475
(2)補助金等移転支出		2,401,679
(3)社会保障関連費等移転支出		2,094,465
(4)その他の移転支出		80,848
経常収益		871,288
1.業務収益		526,536
2.業務関連収益		344,752
純経常行政コスト (経常費用 - 経常収益)		9,921,415

狭義の行政費用



## 純資産変動計算書

- ◆ 純資産変動計算書は、財政状態のフローを純資産の変動の角度から見たものです。
- ◆ 純資産を減少させるものは、まず先程計算した「純経常行政コスト」(これは、業務費用+数々の引当金繰入額からなっています)と、インフラ資産の減価償却(老朽化による価値の目減り分)を表す「直接資本減耗」です。これら全体を(A)とします。
- ◆ 純資産の増加分は、税収や国や県からの種々の補助金です。その他寄付金や他会計からの収益金もあります。これを(B)とします。
- ◆ このどちらが多いかで、次世代へ「負担額」を先送りしたのか、「余剰額」を引き継いだのかということになります。(A)が多ければ、当然「負担額」を先送りしたのであり、(B)が多ければ、「余剰額」を引き継いだことになります。実際に使った費用と設備の劣化費、必要な引当額を当世代が払うものと考えたら、最低必要な税額の見当がつきます。
- ◆ 市の平成24年度は、差引 2,259,459 千円の純資産の増加になっています。

純資産変動計算書		金額(千円)
期首純資産残高		29,587,237
純経常行政費用 直接資本減耗(インフラ資産)	(A)	-9,921,415 -326,092
財源調達 地方税 社会保険料 移転収入(他会計移転収入) 移転収入(補助金等) 移転収入(その他移転収入)	(B)	10,727,396 2,914,719 0 7,940 7,798,555 6,182
その他変動		1,779,570
期末純資産残高		31,846,696

この差額 2,259,459 千円が、  
次世代へ引き継いだ余剰額です。

## 資金収支計算書

- ◆これは、今までに作成してきた決算書と同じ内容です。すなわち、現金(資金)の出入りがどのようになっているかです。本年度末残高は、昨年度末残高より、52,675 千円の増加となっております。
- ◆経常的収支は、資産の形成に関係がなく直接純資産の増大・減少をもたらす資金の収支を表します。費用として処理される人件費や消耗品費のような物件費・経費の支出と、市に入ってきた資金での収入の関係です。ですから、行政コストや純資産変動計算書では支出と考えられた資産の目減り分(減価償却費や直接資本減耗)は、お金が出て行っていないので、その分少なく、大抵プラスとなります。
- ◆しかし、その残った分は資産の目減り分を補充するに等しい資産の取得に充てられています。これが公共資産整備収支(資本的収支)のマイナス分になっています。
- ◆財務的収支は、主として公債の元利償還支出と新しい公債の発行による収入の差額です。ですから、ここは大きなマイナスになった方がよいのです。

## 資金収支計算書

	金額(千円)
1.経常的収支	1,610,369
経常的支出	9,915,905
経常的収入	11,526,274
2.資本的収支	-2,266,420
資本的支出	2,795,576
資本的収入	529,157
3.財務的収支	708,726
財務的支出	1,318,426
財務的収入	2,027,152
当期収支	52,675
期首資金残高	647,123
期末資金残高	699,798

# 新公会計財務諸表のご説明

単体会計 平成24年度

単位(千円)

貸借対照表		金額	負債の部		金額
資産の部			負債の部		
1.金融資産	17.4%	10,530,529	1.流動負債	3.1%	1,874,269
(1)資金		1,775,492	(1)地方債(短期)		1,439,258
(2)未収金		933,943	(2)賞与引当金		87,562
(3)貸付金		111,636	(3)その他		347,450
(4)その他債権		0	2.非流動負債	34.4%	20,926,485
(5)貸倒引当金		-92,532	(1)地方債		18,222,390
(6)有価証券		196	(2)退職給付引当金		2,704,095
(7)出資金		1,739,144	(3)その他		0
(8)基金・積立金		6,060,650	負債合計	37.6%	22,800,754
(9)その他の投資		2,000	純資産の部		
2.非金融資産	82.6%	50,043,623	純資産合計	62.4%	37,773,397
(1)事業用資産		17,679,432			
(2)インフラ資産		32,364,191			
(3)繰延資産		0			
資産合計	100.0%	60,574,152	負債及び純資産合計	100.0%	60,574,152

純資産変動計算書		金額
期首純資産残高		35,824,100
純経常行政費用		-13,852,394
直接資本減耗(インフラ資産)		-776,867
財源調達		14,813,572
税金		2,914,719
社会保険料		895,601
移転収入(他会計移転収入)		0
移転収入(補助金等)		9,269,502
移転収入(その他移転収入)		1,733,750
その他変動		1,764,986
期末純資産残高		37,773,397
		1,949,298

行政コスト計算書		金額
経常費用	100.0%	15,393,384
1.人にかかるコスト	14.8%	2,282,816
(1)議員歳費・職員給料		1,392,037
(2)その他		890,778
2.物件費・経費	25.2%	3,873,523
(1)消耗品費		148,859
(2)減価償却費(事業用資産)		569,926
(3)維持補修費		542,439
(4)その他物件費		184,362
(5)委託費		2,000,038
(6)その他経費		427,899
3.業務関連費用	3.1%	478,178
(1)公債費(利払分)		335,257
(2)その他の業務関連費用等		142,921
4.移転支出	56.9%	8,758,868
(1)他会計への移転支出		0
(2)補助金等移転支出		6,583,553
(3)社会保障関連費等移転支出		2,094,465
(4)その他の移転支出		80,851
経常収益		1,540,990
1.業務収益		1,134,142
2.業務関連収益		406,848
純経常行政コスト		
(経常費用 - 経常収益)		13,852,394

(1)赤線  
純資産の増減を表します。  
・緑線は減った純資産  
・財源調達は入った純資産  
・その他は資産の目減り分

(2)青線  
資金の増減を表します。  
(現在の決算書と同じ)

赤青が集まって  
貸借対照表を作ります。

資金収支計算書		金額
1.経常的収支		1,971,197
経常的支出		14,299,827
経常的収入		16,271,025
2.資本的収支		-2,384,352
資本的支出		3,013,462
資本的収入		629,110
3.財務的収支		653,621
財務的支出		1,888,714
財務的収入		2,542,335
当期収支		240,466
期首資金残高		1,535,026
期末資金残高		1,775,492

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。

# 新公会計財務諸表のご説明

連結会計 平成24年度

単位(千円)

貸借対照表		金額			
資産の部	金額	負債の部	金額		
1.金融資産	15.5%	10,025,666	1.流動負債	3.0%	1,924,489
(1)資金		1,958,541	(1)地方債(短期)		1,465,143
(2)未収金		955,442	(2)賞与引当金		109,015
(3)貸付金		111,636	(3)その他		350,330
(4)その他債権		0	2.非流動負債	34.1%	22,042,662
(5)貸倒引当金		-95,448	(1)地方債		19,074,258
(6)有価証券		196	(2)退職給付引当金		2,968,404
(7)出資金		559,545	(3)その他		0
(8)基金・積立金		6,533,754	負債合計	37.2%	23,967,151
(9)その他の投資		2,000	純資産の部		
2.非金融資産	84.5%	54,486,708	純資産合計	62.8%	40,545,223
(1)事業用資産		18,431,568			
(2)インフラ資産		36,055,140			
(3)繰延資産		0			
資産合計	100.0%	64,512,374	負債及び純資産合計	100.0%	64,512,374

純資産変動計算書		金額
期首純資産残高		40,092,216
純経常行政費用		-14,584,228
直接資本減耗(インフラ資産)		-871,683
財源調達		15,655,401
税金		2,914,719
社会保険料		1,315,723
移転収入(他会計移転収入)		0
移転収入(補助金等)		8,979,456
移転収入(その他移転収入)		2,445,503
その他変動		253,517
期末純資産残高		40,545,223
		453,007

行政コスト計算書		金額
経常費用	100.0%	16,660,850
1.人にかかるコスト	15.9%	2,648,619
(1)議員歳費・職員給料		1,645,165
(2)その他		1,003,454
2.物件費・経費	25.4%	4,237,384
(1)消耗品費		180,357
(2)減価償却費(事業用資産)		610,813
(3)維持補修費		608,731
(4)その他物件費		237,039
(5)委託費		2,130,306
(6)その他経費		470,138
3.業務関連費用	3.3%	541,504
(1)公債費(利払分)		358,335
(2)その他の業務関連費用等		183,169
4.移転支出	55.4%	9,233,344
(1)他会計への移転支出		0
(2)補助金等移転支出		7,057,816
(3)社会保障関連費等移転支出		2,094,465
(4)その他の移転支出		81,064
経常収益		2,076,621
1.業務収益		1,645,638
2.業務関連収益		430,984
純経常行政コスト		
(経常費用 - 経常収益)		14,584,228

(1)赤線  
純資産の増減を表します。  
・緑線は減った純資産  
・財源調達は入った純資産  
・その他は資産の目減り分

(2)青線  
資金の増減を表します。  
(現在の決算書と同じ)

赤青が集まって  
貸借対照表を作ります。

資金収支計算書		金額
1.経常的収支		2,109,288
経常的支出		15,533,395
経常的収入		17,642,683
2.資本的収支		-2,394,039
資本的支出		3,124,999
資本的収入		730,960
3.財務的収支		514,779
財務的支出		2,029,159
財務的収入		2,543,938
当期収支		230,027
期首資金残高		1,728,513
期末資金残高		1,958,541

※表示金額は千円単位となっており、四捨五入のため合計金額に齟齬が生じます。